

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2021.12)令和3年度:2

,

# 認知症高齢者への退院支援に関する文献検討

小長谷穂乃 進藤柚希

(指導: 牧野志津 服部ユカリ)

## 緒言

高齢者人口の増加に伴い、認知症高齢者は2025年には約700万人となり、65歳以上の人口の4～5人に1人になるとされている<sup>1)</sup>。認知症になっても本人の意思が尊重され、地域で暮らし続けられる社会の実現を目指して2012年に「認知症施策5か年戦略」が策定された<sup>2)</sup>。認知症高齢者は入院すると環境の変化により心身機能が低下しやすく、入院期間が長期化すれば元の生活を取り戻すことが難しくなると考えられる。本人・家族が住み慣れた場所で望んだ暮らしを続けるためには、適切な退院支援が重要である。そこで、本研究では病院看護師が認知症高齢者の退院に向けての関わりと支援の特徴を明らかにすることを目的とした。

<用語の定義>退院支援: 入院初期から療養への移行までの時期に行う、患者・家族の意向に沿った退院後の生活を実現するための社会資源・地域サービスの調整や多職種連携も含む支援や介入<sup>3)</sup>。

## 方法

### 1. 文献検索と文献の選定過程

医学中央雑誌web版(以下、医中誌web)を用いて、「認知症」「退院」をキーワードとして検索した。検索式は、(認知症/TH or 認知症/AL) and (退院/TH or 退院/AL)、さらに(PT=原著論文、会議録除く) and (SB=看護)として絞り込みを行った。検索対象年は診療報酬算定に伴い、退院支援が本格的に進められた2008年以降とした。文献の選択基準は①質的研究②研究フィールドが医療機関③認知症高齢者や家族に対する、退院後の療養生活の場を踏まえた退院支援について記述があるものとした。除外基準は、①英語文献、事例研究、解説・特集、学術集会誌等②ページ数が少なく内容が確認できないもの③若年性認知症を扱ったもの④その他テーマに合わないものとした。検索日は2021年5月1日であった。さらに系統的な文献検索を行うため、採択した対象文献の引用文献リストから検索した。

### 2. 分析方法

対象文献をすべて精読し、認知症高齢者への退院支援に関する研究結果の記述を抽出した。研究結

果の記述の意味内容を損なわないように一文で表し、コード化した。コードの共通性・相違性に基づきグループ化し、サブカテゴリー、カテゴリーを生成した。その過程では指導教員の助言を受け、整合性を高めた。

### 3. 倫理的配慮

本研究は文献研究であり、著作権および論文の盗用・剽窃に注意し、引用・参考文献は出典先を明記した。

## 結果

ヒットした513件の文献より、選択基準、除外基準に沿って7件を選定した。さらに、これらの引用文献情報から選定条件に合う1件を追加し計8件を対象文献とした。これらから、121のコード、32のサブカテゴリー、8のカテゴリーを抽出した(表1)。以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを[ ]で示す。

表1. 認知症高齢者に対する退院支援

カテゴリー (8)	サブカテゴリー (32)
退院を見据えた情報収集に基づく理解とアセスメント	認知症症状の程度の理解 退院後を見据えた情報収集とアセスメント
家族状況の理解とアセスメント	家族関係の理解 家族状況の理解とアセスメント 家族の不安の理解
意思表示支援と本人・家族・専門職者間での合意形成	本人との良好な関係の構築 本人の意思表示の促進 患者・家族・専門職者の合意形成
退院に向けた家族に対する看護	退院に向けた家族に対する介入 家族の話の傾聴とねぎらい 認知症高齢者と家族との仲立ち 家族の立場に立った関わり 在宅生活継続のための家族への指導
退院を見据えた残存機能の向上	退院後を見据えた介入 生活のリズムを整えること 社会的交流をすること 排泄行動の自立への看護 食事摂取の促進のための看護 清潔保持する看護 身体機能の向上に向けたリハビリ できることを伸ばす看護 ADL向上の看護 残存機能を生かす看護
安全・体調管理の看護	体調管理 病院内での安全対策 入院中に行う退院後の安全対策
多職種・患者・家族との情報共有や関係づくりと連携	多職種連携 多職種・家族との情報共有 多職種と患者・家族の関係づくり 早期の退院支援
社会資源の活用と生活の場における支援	社会資源の活用の促進 生活の場へつなぐ支援

## 考察

坂井 (2015) は看護師が行う退院支援のガイドラインにおいて、1. 入院前情報の収集とアセスメント、2. 意思決定支援と方向性の共有、3. 療養環境の準備・調整①医療上の課題、②生活・ケア上の課題、4. 地域サービス・社会資源との連携①地域とのカンファレンス、②地域への情報提供をあげている<sup>4)</sup>。それらを本研究の結果と照合すると、1. 入院前情報の収集とアセスメントは【退院を見据えた情報収集に基づく理解とアセスメント】

【家族状況の理解とアセスメント】、2. 意思決定支援と方向性の共有は【意思表出支援と本人・家族・専門職者間での合意形成】、3. 療養環境の準備・調整の①医療上の課題と②生活・ケア上の課題は【退院に向けた家族に対する看護】【退院を見据えた残存機能の向上】【安全と体調管理の看護】、4. 地域サービス・社会資源との連携の①地域とのカンファレンスは【多職種・患者・家族との情報共有や関係づくりと連携】、②地域への情報提供は【社会資源の活用と生活の場に繋げる支援】と共通していると考えられる。つまり認知症高齢者に対する退院に向けた関りは、必要とされている退院支援の要素を内包していることが明らかになった。

一方、抽象度の高いカテゴリーでは認知症高齢者支援の特徴は見えにくい、サブカテゴリーの【認知症症状の程度の理解】、【病院内での安全対策】に認知症高齢者への支援の特徴が表れている。認知症高齢者は中核症状による記憶・判断の障害や、失語等の認知機能障害により自らの状況を十分に説明することができないこと、脳神経障害や中核症状、BPSD など複数要因から転倒しやすく<sup>5)</sup>、入院が長期化し、円滑な退院を阻む要因となることから、この特徴を踏まえた退院を見据えた関りは重要であると考えられる。

近年認知症ケアは全人的ケアの時代に変遷を遂げ、認知症ではなく「1人の人」から出発し、それに認知症という状態が加わった「人」として捉えられている<sup>6)</sup>。そのため、看護師が認知症高齢者やその家族に関わる際には退院支援を行う際には、認知症の有無に関わらず必要とされている要素を基本としながらも、認知症の特徴を踏まえた「1人の人」として向き合うことでその人達が望む暮らしの実現に寄与できると考える。

## 結論

認知症高齢者への退院支援は、一般的な退院支援と共通する要素が含まれていた。さらに、認知症高齢者に特化した支援の特徴として、[認知症症状の程度の理解][病院内での安全対策]が明らかになった。認知症高齢者やその家族に退院支援を行う際には退院支援のプロセスを基本としながらも、認知症がある人の特徴を踏まえた関りが重要であることが示された。

## 引用文献

- 1) 厚生労働省 (2021) : 認知症の人の将来推計について, <https://www.mhlw.go.jp/content/000524702.pdf>, (2021年7月13日閲覧)
- 2) 厚生労働省 (2021) : 認知症施策推進総合戦略 (新オレンジプラン), [https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/nop1-2\\_3.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/nop1-2_3.pdf), (2021年7月13日閲覧)
- 3) 宇都宮宏子、長江弘子、山田雅子他 (2012) : 退院支援・退院調整ステップアップQ&A 実践者からの知恵とコツ, 日本看護協会出版会
- 4) 坂井志麻編 (2015) : 退院支援ガイドブック「これまでの暮らし」「そしてこれから」をみすえてかかわる, 学研メディカル秀潤社, 4-5
- 5) 丸岡直子, 鈴木みずえ, 水谷信子他 (2018) : 認知症看護のエキスパートによる転倒予防ケアの臨床判断の構造とプロセス, 日本転倒予防学会, 5(1), 65-79, 65
- 6) 中島紀恵子編 (2017) : 認知症の人びとの看護 第3版, 医歯薬出版株式会社, 7

## 対象文献

- 1) 丸山優, 田中敦子, 水間夏子他 (2020) : 認知症高齢者の生活の継続を見据えた急性期病院における看護の構造 開放型病床での看護実践の質的分析, 老年看護学, 25(1), 87-96.
- 2) 小木曾加奈子, 樋田小百合, 久留弥保他 (2019) : 地域包括ケア病棟の認知症高齢者に対する退院後の療養の場を踏まえた看護実践 自宅と施設に退院した事例に着目をして, 福祉と看護の研究誌, 6, 15-25.
- 3) 斎藤多恵子, 石橋みゆき, 山下祐紀他 (2019) : 急性期病院の認知症高齢者の退院支援過程において退院支援専任看護師が行う倫理的意思決定支援, 千葉看護学会誌, 25(1), 47-56.
- 4) 小木曾加奈子, 樋田小百合, 渡邊美幸他 (2018) : 看護職が認知症高齢患者の退院支援・退院調整において心がけていること, 福祉と看護の研究誌, 5, 60-68.
- 5) 清永麻子, 永田千鶴, 堤雅恵他 (2016) : 認知症を有する大腿骨近位部骨折患者の在宅復帰に向けて 回復期リハビリテーション病棟看護師が実施している看護の実態, 日本リハビリテーション看護学会誌, 6(1), 34-43.
- 6) 尾島喜代美, 木村清美 (2011) : 回復期リハビリテーション病棟看護師がとらえた認知症高齢者の家族支援 自宅での介護を選択した家族への退院支援, ヘルスサイエンス研究, 15(1), 55-60.
- 7) 小木曾加奈子, 樋田小百合, 渡邊美幸他 (2018) : 地域包括ケアにおける認知症高齢患者へのシームレスケア, 地域福祉サイエンス, 5, 1-9.
- 8) 小木曾加奈子, 樋田小百合, 渡邊美幸 (2018) : 地域包括ケア病棟における認知症高齢患者のもてる力の活用と課題, 教育医学, 第3号, 252-259